【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成25年2月7日(2013.2.7)

【公開番号】特開2011-145531(P2011-145531A)
【公開日】平成23年7月28日(2011.7.28)
【年通号数】公開・登録公報2011-030
【出願番号】特願2010-6990(P2010-6990)
【国際特許分類】
Ｇ０９Ｇ　3/30　(2006.01)
Ｇ０９Ｇ　3/20　(2006.01)
Ｈ０１Ｌ　51/50　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０９Ｇ　3/30　Ｊ
Ｇ０９Ｇ　3/20　６２２Ｍ
Ｇ０９Ｇ　3/20　６２２Ｑ
Ｇ０９Ｇ　3/20　６２２Ｒ
Ｇ０９Ｇ　3/20　６１２Ｅ
Ｇ０９Ｇ　3/20　６２４Ｚ
Ｇ０９Ｇ　3/20　６２４Ｂ
Ｇ０９Ｇ　3/20　６１１Ｆ
Ｇ０９Ｇ　3/20　６４２Ａ
Ｈ０５Ｂ　33/14　Ａ

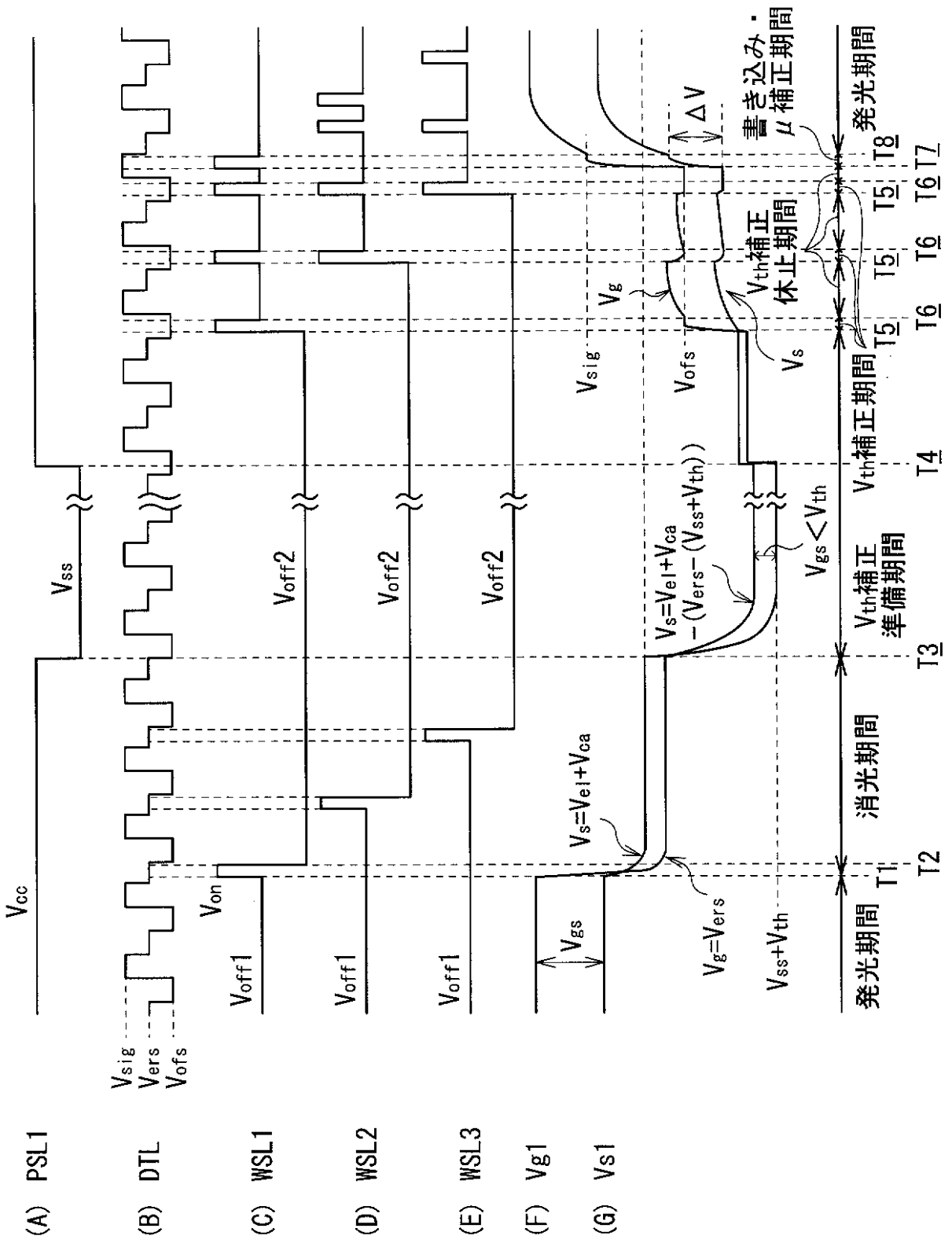
【手続補正書】
【提出日】平成24年12月13日(2012.12.13)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
図１７は、電源線駆動回路内の信号出力部が複数の画素行で共用化された表示装置の概略構成を表したものである。図１７に記載の表示装置１００では、電源線駆動回路１４０内の個々の信号出力部に電源線ＰＳＬ（ＰＳＬ１，ＰＳＬ２，……）が一つずつ接続されており、個々の電源線ＰＳＬ（ＰＳＬ１，ＰＳＬ２，……）に複数の画素行（図１７では３行）に属する画素１１１が接続されている。一方、信号線駆動回路１２０内の個々の信号出力部に信号線ＤＴＬ（ＤＴＬ１，ＤＴＬ２，……）が一つずつ接続されており、個々の信号線（ＤＴＬ１，ＤＴＬ２，……）に各行の画素１１１が一つずつ接続されている。また、書込線駆動回路１３０内の個々の信号出力部に書込線ＷＳＬ（ＷＳＬ１，ＷＳＬ２，……）が一つずつ接続されており、個々の書込線ＷＳＬ（ＷＳＬ１，ＷＳＬ２，……）に各列の画素１１１が一つずつ接続されている。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１０】
図１８は、図１７に記載の表示装置１００における各種波形の一例を表したものである。図１８には、電源線ＰＳＬに２種類の電圧（V_{cc}、V_{ss}）が、書込線ＷＳＬ１～ＷＳＬ

６に２種類の電圧（V_{on}、V_{off}）が印加されている様子が示されている。図１８からわかるように、表示装置１００では、複数の画素行（図１８では３行）を一つのユニットとして、電源線ＰＳＬ（ＰＳＬ１，ＰＳＬ２，……）から各画素１１１にユニットごとに共通のタイミングでV_{cc}とV_{ss}を印加するユニットスキャンが行われている。

【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６９】
また、上記実施の形態等では、信号線駆動回路２３、書込線駆動回路２４、電源線駆動回路２５の駆動をタイミング生成回路２１が制御していたが、他の回路がこれらの駆動を制御するようにしてもよい。また、信号線駆動回路２３、書込線駆動回路２４、電源線駆動回路２５の制御は、ハードウェア（回路）で行われていてもよいし、ソフトウェア（プログラム）で行われていてもよい。

【手続補正４】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図５
【補正方法】変更
【補正の内容】

【図５】


(A) PSL1
(B) DTL
(C) WSL1
(D) WSL2
(E) WSL3
(F) Vg1
(G) Vs1
Vcc
Vss
Von
Voff1
Voff2
Vsig
Vers
Vofs
Vgs
Vg=Vers
Vss+Vth
Vs=Vel+Vca
Vs=Vel+Vca−(Vers−(Vss+Vth))
Vgs<Vth
Vsig
Vofs
Vg
Vs
ΔV
Vth補正準備期間
Vth補正期間
Vth補正休止期間
書き込み・μ補正期間
発光期間
消光期間
発光期間
T1
T2
T3
T4
T5
T5
T5
T6
T6
T6
T7
T8